



# おちほ

第68号 平成22年11月20日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 中嶋 貴一郎



## 七夕フェスティバル

今年も落穂寮の恒例行事、七夕フェスティバルが行われました。新人同士が力を合わせて主催するフェスティバルです。今年の新人は、男子5名、女子6名という大人数です。最初は劇にするかミュージカルにするか悩み、劇のほうが利用者さんも楽しめるのではないかと話になり、劇をすることになりました。次にどのような劇にしようかをみんなで話し合っ、白雪姫をすることになりました。でも、ただの白雪姫をするのではなく、七夕のお話が入った白雪姫をしたほうが面白いのではないかととなり、オリジナルの脚本をみんなで作りしました。その後はみんなで練習や舞台設置、大道具を作ったりととても大変でしたが、先輩職員のアドバイスもあり何とか進んでいきました。中でも一番大変だったのは大人数のためなかなかみんなが集まって練習できなかったり意見が違ったりで衝突することでした。そんなこんなで何とか本番に間に合い開演。最初は緊張で出なかった声も、利用者さんの笑顔や拍手に励まされて出るようになり、最後のダンスではアンコールまで。利用者さんが舞台上に乱入して全員でダンスタイムとなり、大盛り上がる七夕となりました。



理事長 山下陽一

## 若人がこない

若い人たちに仕事がなく、就職氷河期などといわれて久しい。学校在学中から早期に就職活動をしなくても希望する就職口がなかなか見つからないという状態が十年以上も続いていきます。数十社受けても内定がもらえない状態に、就職意欲どころか意欲的に生活することさえ減退して自暴自棄になっていくというのにもよわかります。ひとりの人間形成の最も大切な時期に彼らの希望を押しつぶす巨大にのたうつモンスターがいつも早く沈静化することを祈らずにはおれません。

しかし、福祉事業関係にはひとつが不足しており、大きな社会問題となっています。

国はこの現象を改善するべく動き出しました。福祉の職場は、「きつい・やすい・やめぬい」の三条件に加え、「遠目なし」の労働条件に、特に養護老人施設で問題になっているのですが、「やりがいがない」と若い人たちが職場を去っている、といわれている問題の改善がおこなわれようとしています。待遇改善の一つとして、施設の収入増をもたらしすもので「キャリアパス要件を満たした場合には、報酬を上積みしますよ」という制度です。この要件とは、職員給与の支給を体系化すること、仕事する職員の研修を行うことなどの職場における雇用条件の改善などが要件

となるのですが、いままで十分でなかった人事制度を確立させるための大きな要素となるものです。

## 目的は適材適所

先にあげた三条件プラスの「遠目なし」の課題解決のひとつとして、人事制度をしっかりと取り戻すに制度、人事「働いていい働き手ひとり一人に将来像が予想でき見通せる人事制度を作り、人材育成を図れ」というのが、キャリアパス要件が示している指針です。

そこで、仕事に対するひとり一人の職員がより積極的にモチベーションをもって仕事できるように、人事評価（人事考課）を導入して制度的に整備しようというのがこの制度作りの主旨となります。

評価の目的は人を「適材適所」に配置とすることです。その人がいかなる適正が有するかを見きわめて適切な配置をし「施設運営の効率化・高度化」を図りチームの士気を高め支援体制を強化することに結びつくものでなければなりません。

人事考課は公務員においては歴史的経過があり、使用者側と被使用者側の競いとなって今日に至っているという経過があります。民間企業においても同様な経過を辿ってきたことでしょう。ところが落穂寮のみならず福祉関係施設ではあまり積極的に考慮されてはきません。しかし今、次第に公務の機関や一般企業でおこなわれる人事管理方式が導入されはじめました。

特に公務員任用において顕著ですが、試験の種類や採用時期などが重視された任用や年功に基づいた給与体系が中心だった人事制度を抜本的に見直し、

業績評価や能力評価を導入した結果としての配置処遇を行うというものです。具体的には職場において自己評価を先に、評価者による業績評価や能力評価などを総合して人事異動や給与に反映させようという趣旨のもとに新しい人事制度を導入しようとするものです。このようなことから国家公務員法において実績・能力による人事管理が行われるよう改正されました。

また、裁判所は裁判官ひとり一人が独立性を求められ憲法に保障されていることですが、裁判官さえ人事評価については聖域ではありません。今日では「評価シート」は変更されたようですが、過去行われていた評価項目に、「法律知識が十分でない」、また「教養が十分でない」という評価項目がありました。こんな裁判官に判決を言い渡されていたのでしょうか。裁判官の人事評価は欧米など世界的動向も考慮に入ながら裁判所の内規として行われるようです。しかも憲法上天皇が任命する以外に任用された人々は全員聖域なく評価される、そんな社会になってきているのです。

落穂寮も世の中の流れに沿って、人事評価制度の導入は避けられないでしょう。

## ナルシスにご用心

しかし、ここで大きな問題が控えています。

「ナルシス」はギリシャ神話に登場しますが、水面に映る自分の姿に恋をしてほれほれと眺め続けていた彼は、お辞儀をしたままの姿で水辺の水仙に姿を変えた、という逸話です。

「ナルシス」（自己陶醉者）は他人が

行う己の評価を受け入れることが難しい（個人差はありますが）。自己評価が必ずしも評価者の評価と一致しない場合が往々にしてあるのです。しかも、評価を受ける人は周囲から都合よいプラス評価だけが自分に入ってくる。この「張り評価」が己の確信となれば他人の評価は不服で受け入れることなどできないでしょう。配置における職務上果たすべき役割について責任の自覚がどの程度必要であるのか、本人はそれを自覚できているとは限らない。自己評価の際、自己陶醉を含んだ自尊心を克服して客観的に行うことができるか、大きな試練となるでしょう。

しかし、そんな場合さえ評価を受けた者の不服を取り上げるシステムも欠かすことはできません。不服ある人は、それぞれの持ち場で役割・職責を充分果たしているとか、求められる力量に答えられているとか、それを評価者に納得させなければなりません。過不足ない評価を受けるには、己の「張り評価」を克服しなければなりません。

適材適所が機能しているのか、問題に対する解決の能力、チームの職員を指揮指導する力量等、評価は本人はもちろん、第三者も納得できるものでなければなりません。

評価基準は明確で透明でなくはなりませんし評価の信頼性も問題になるでしょう。適切でないからといって評価基準を頻繁に変えるとは信頼性を失うことにつながるでしょう。評価尺度を一度作ったら終わりではなく、「不断の検証」を続けていくことにより、より適切な制度を構築していくという覚悟が必要ではないでしょうか。

## 親の思い・子の思い

寮 長 中嶋 貴一郎

今年の夏の異常な猛暑が過ぎ、遅い秋をようやく迎えることができず、きました。秋の訪れとともに落穂

寮では十月十日にレクリエーション大会を予定していましたが、前日からの雨で中止せざるを得ないこととなってしまいました。無念の思いで運動場の真中で空を恨めしく仰いでいると、背中に鋭い視線を感じて振り返ると、居室の窓から入居者の人たちが不安気に運動場を眺めていました。レクリエーション大会はあるのだろうか、と問い詰めるような眼でした。みんなはレクリエーション大会があるのかどうかに不安を抱いているのではなく、レクリエーション大会があれば親御さんや家族が来てくれる、一緒に楽しいひと時を過ごせる、そのことに期待を持って

いるのです。入居者の切ない想いに応えてあげることができず、中止せざるをえませんでした。

寮で暮らす人たちにとつて、親御さんを慕う思いは人一倍強いものがあり、それが日々の生活の中で強く感じられる場面が多々見られます。知的に重度であるがゆえに、その表現はストレートで、それが痛々しく感じることはありません。それは入居者の皆さんが何歳になっても変わることのない思いです。

私事を少し語りませんが、今年の五月に私の一番下の息子から突然電話がかかってきました。息子は今年、学校を卒業し、四月から東京で仕事を始めていました。学生の中から妻には頻繁にメールを送っていたようですが、私には

めったにメールも電話もしてこない息子でしたが、平日の昼間の突然の電話に何事かと不安になりました。聞いてみると、仕事でミスをして上司に叱られた、反省文を書けといわれたが、どうしたらよいかわからないということでした。社会経験の少ない息子にはどうしたら良いか解らなかつたのでしよう。的確であつたかどうか解りませんが、息子にアドバイスを

して、解決方法を伝え、電話を切りました。その時私が感じたのは、困った時、私を頼ってくれたことが非常に嬉しかったし、遠く離れている息子が心配でもありません。親という者は、子が何歳になつても、自分が何歳になつても子のことを思い続けるものだといわれていますが、この時改めて親としての思いを実感しました。

寮に暮らす人の親御さんも、日々同じ思いで子のことを心配しておられるのだらうと思つています。今回、レクリエーション大会の中止の連絡をすると、「残念で

すね」の言葉の後に「こどもは元気にしていますか」の言葉が返ってきました。この言葉の重みが、入居者の皆さんの親を慕う思いに対する親御さんの答えなのだと思つています。

私たちは施設の日々の暮らしの中で、入居者の親を慕う思い、親御さんの子を思う気持ちに伝えるべく日々接しているか自問自答しています。近年、ともすれば「サージャ」支援」という言葉の中で職員、従事者の都合に合わせた機械的な支援に陥りがちになっている福祉現場において、改めて「親の思い、子の思い」を見つめなおしてもいいのではないかと感じています。

レクリエーション大会の中止の電話連絡をしながら、運動場で無念の思いで天を仰ぎながら、入居者の鋭い視線を感じつつ、「親の思い、子の思い」に心をめぐらせていました。

# ★ 新人紹介 Part2 ★



## 小原裕美 中西克友 清水貞雄

初めまして本年7月より居宅介護のヘルパーとして採用頂きました清水貞雄です。よろしくお願ひします。「新人と言うよりオジン」です(笑) さて、製造業で32年間お世話になりました。次に選んだ職は障害者福祉でした。その理由は、私の息子は知的障がいを伴う自閉症であり、これまでに数々の福祉制度の活用やサービスの利用をさせて頂き救われてきた事

と、多くの福祉関係者や、親と出会い励まされ続け今日に至っているからです。今回落穂寮で働かせて頂けるのは本当にありがたい事ですし、息子までお世話になり本当に感謝しています。居宅介護の仕事、まだ始まったばかりですが、良いヘルパーになれる様、がんばりますのでご指導お願いします。

はじめまして。この度落穂寮で働かせて頂く事になりました中西克友と申します。職歴も佐川急便でトラックに乗っていたり、信楽で焼き物を作っていたりと、福祉には縁のないような仕事をしていました。

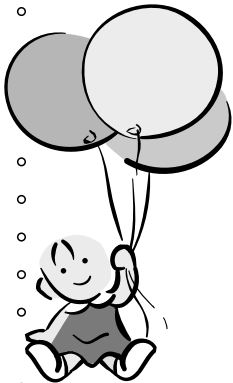
思います。残りの人生、福祉関係の仕事をして行く事が、恩返しになればと思ひ、福祉関係の仕事をハローワークで探し、縁ありましてここ落穂寮で働かせて頂ける事となりました。まだ少し後遺症が上下肢に残っています。一生懸命頑張ります。お願いします。

自分は四年前に交通事故に遭ひ、頸椎骨折となり生死の境目にいました。そのとき医療関係の方々また福祉関係の方々たいへんお世話になり、ここまで復活出来たと

はまだまだ不十分で至らない所もたくさんありますが、精一杯頑張っていきたいです。先輩方には、いろいろご迷惑をおかけしますがこれからよろしくお願ひします。

初めまして。華頂短期大学社会福祉学科を卒業し、今年の五月から落穂寮で働かせて頂いています小原裕美です。

私は、中学の頃から将来は社会福祉の現場で働きたいと考えていました。なので落穂寮で働かせて頂く事に嬉しさを感じています。しかし、今まで福祉を学んできましたが、障がいを持った方たちと接する機会はありませんでした。そのため、知識や経験



# ☆地蔵盆☆



▲お地蔵さん前にみんな集合!!

例年、お盆の頃になると暑さもある程度落ち着くものですが、今年の夏は異常な暑さでした。それでも毎年恒例の地蔵盆は無事に行うことができました。地蔵盆当日も例外なく気温が35度を楽々と越えるような猛暑日。利用者さんの体調も心配だったので事務所前にお堂に集合して、お参りの済んだ方から棟の方に帰って頂く事になりました。いつもより短い寮長のお話が終わるとみなさん順番に職員と一緒に「ナムナム」「ムニヤムニヤ」と何やら声を出され

な暑さから逃れてほっとしたのと同時に、この暑い中ずつと外に鎮座しているお地蔵さんに、多少申し訳ない気持ちになる職員でした。来年はもう少し涼しくて過ごし易い夏になりますように。そして来年もまた、みんな元気で揃ってお参りできますように。今年もこれから一年間、落穂寮を見守って下さい。



▲しっかりお参り「ナムナム～」

る方もちらほらみられ、皆さんしっかりとお地蔵さんにお参りされているようでした。中にはお地蔵さんよりも、その手前にお供え物が気になる方もおられるようですが、そこはご愛嬌。お地蔵さんも皆の願いをしつかり聞いてくれたことでしょう。ひとりづつお参りが終わると、暑い暑い外からクーラーの効いた棟へ移動。異常



# ☆納涼祭☆



今年の納涼祭は天候にも恵まれ、屋台や盆踊り、花火といった催し物も十分に楽しまれてたと思います。屋台ではおにぎり、海鮮焼きそば、揚げタコ焼き、焼き鳥、焼きとうもろこしといった品々があり、利用者の方たちもいつもとは違うメニューに喜ばれ、とてもおいしそうでした。最後の花火では行事委員が色とりどりの花火を用意し、利用者の方、職員もみんな楽しんで見ることができました。

# 食欲の秋

## 焼きいもパーティー

10月16日、三年ぶりに、焼きいもパーティーが行われました。この日は天気にも恵まれて涼しい一日となりました。

職員が落ち葉を集めて、前の日に日課班で収穫したさつまいもを

焼いていると、「なにをしているんだらう」と気になってそちらの方に行こうとされたりする方がいたり、できたての焼きいもが目前に並べられると、おいもさんを見てテンションを上げて喜ばれる方や、たくさんおかわりをされる方もおられました。レクリエーション大会がなくなりましたが、食欲の秋ということので、焼きいもパーティーができ、一つでも秋らしいことが行え、楽しんで頂けて良かったと思います。



本来ならこのページはレクリエーション大会の楽しそうな写真が沢山載るはずだったのですが、あいにくの雨のため中止に...  
楽しみにされていた方々には申し訳ありませんでした。  
来年こそは皆さんの勇姿をお届けできれば...と思います。



夏だ!  
プールだ!  
飯ごう炊飯だ!  
in男子棟 😊

8月8日は男子棟の飯盒炊さん。この日は一日天気恵まれ、真夏日になりました。皆さん一日を通してプールで楽しくすごされたり、体育館で音楽を聞いて過ごされました。



女子棟  
お誕生日会



9月23日、女子棟では7・8・9月生まれの方のお誕生日会が行われました。今回の主役は、北崎さん、桜さん、西井さん、西村さん、船津さんの五名です。職員でも普段目にする事の無い程の大きなケーキをあっという間に完食。中には「大きいの!」とアピールしてこられる方も。だってここは「女子」棟。みんな甘い物が大好きです。ニコニコ笑顔でお誕生日会は大成功。楽しい時間を過ごすことができました。



# 石部中ふれあい交流 2010

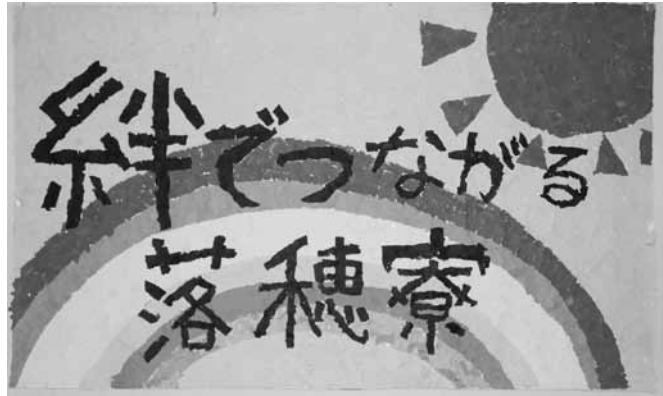
毎年恒例の石部中学校とのふれあい交流が、七月一日と十月五日にありました。

利用者は毎年メンバーが変わりますが、中学生は毎年違う生徒さんが来られる為、今回はどんな方たちが来てくれるのか、楽しみに待っていました。

第一回目の交流では、お互いが緊張状態で、無言のまま歩行…と少し寂しい交流でしたが、手を繋ぎ共に歩いたことで、お互いが次への課題を見つけることができた様です。

第二回目は、丸一日共にすごし、利用者さんが日々取り組んでいる作業にも一緒に参加してもらいました。どう関わっていったら良いのか戸惑いながらも、利用者さんのリードの元？お互いに楽しいひと時を過ごすことが出来ました。一緒に一つの事に取り組んだことで、距離が縮まったのではないのでしょうか？

最後には、生徒さんから素敵なプレゼントもいただきました。今回、また新しい絆が出来たことを嬉しく思います。ありがとうございました。



◀きれいな貼り絵をいただきました♡

## 泉

▽障害者自立支援法が廃止決定され、新たに「障がい者総合福祉法」という名前の法律が出来る予定になっています。しかし、中身は未定でどのようなものになっていくか、誰にも分かりません。

色んな立場の人の意見を取り入れようとするのは良いことではありますが、全ての障がい者やその関係者が満足できるものとはなりえないでしょう。特に知的にハンディを持つ方々は、そのハンディゆえに自分の思いを正確に伝えることが難しいのです。

私たち関係者は、あらゆる視点から目の前にいる人たちの本当の声に気が付き、謙虚な姿勢でそして広い視野に立った彼らの代弁者でなければならぬと思うのです。

## 木言こと

朝があるから夜が来る。光と闇が空気を換える。全てのものは、他の存在があつて初めて自己の存在を確認することができる。

枝葉は広げるが、主張のしすぎは光を遮り、他の存在を脅かすこととなり、自滅へと突き進むことになる。見下ろしては見えない大切なものが、その足元にある。